

# 2017年3月期 第1四半期決算資料

2016年7月15日

P3 第1四半期 損益計算書(連結)

P4 事業の種類別セグメント

**【広告事業】**

P5 第1四半期 損益計算書

P6 四半期売上高の推移

P7 品目別売上高の推移

P8 従業員の状況

**【不動産事業】**

P9 第1四半期 損益計算書

P10 第1四半期 連結貸借対照表

P11 2017年3月期 2Q連結業績予想修正と通期予想進捗状況

# 第1四半期 損益計算書(連結)

(単位：百万円)

	当1Q累計期間	構成比	前1Q累計期間	構成比	前年同期比
売上高	4,054	100.0%	4,153	100.0%	97.6%
営業利益	323	8.0%	238	5.7%	135.6%
経常利益	294	7.3%	245	5.9%	120.2%
純利益	194	4.8%	159	3.8%	121.8%

## 外部環境>

- ユーザー参加頻度や投資金額減少 = ホール業界の収益は依然厳しい状況
- 新規出店は減少傾向、一方で同業ホール法人による買収活発化 = 業界再編の流れ
- 本年末までの撤去台問題 = 収益面の先行き懸念

## 当社の取組み>

- ✓ インターネットメディア拡販、異業種プリンティング事業拡大 = 収益構造の転換
- ✓ 収益性改善のための固定費抑制

## 結果>

- ✓ 売上高の前年同期比は2.4%減だったものの、営業利益は同35.6%増、経常利益は同20.2%増、四半期純利益は同21.8%増となり、若干の減収・大幅な増益となりました。

# 事業の種類別セグメント

## □当第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	3,994	36	24	-	4,054
セグメント利益	396	17	△1	△88	323

## □前年同期比

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	△106	-	+8	-	△99
セグメント利益	+67	+3	+6	+10	+85

✓ 当第1Q期間中に開催された伊勢志摩サミットの影響により、広告事業の売上高は前年同期比で106百万円下回り、連結ベースで△99百万円となった一方で、前年に比べてグループ全体で固定費の削減が進んだこともあり、セグメント利益は+85百万円となりました。

# 第1四半期 損益計算書(広告事業)

(単位：百万円)

広告事業	当1Q累計期間	前1Q累計期間	前年同期比
売上高	3,994	4,100	97.4%
営業費用	3,598	3,771	95.4%
セグメント利益	396	329	120.2%

## 外部環境>

- ホール企業の収益性悪化による広告費削減傾向 = ホール広告市場は低迷
- 本年5月伊勢志摩サミット開催 = 約1ヶ月間の全国一斉新台入替自粛

## 当社の取組み>

- ✓ 継続的な新規大手顧客の開拓
- ✓ パチ7やリスティング広告販売、異業種プリンティング営業強化
- ✓ 営業拠点集約、受注プロセス見直し・合理化による固定費の抑制

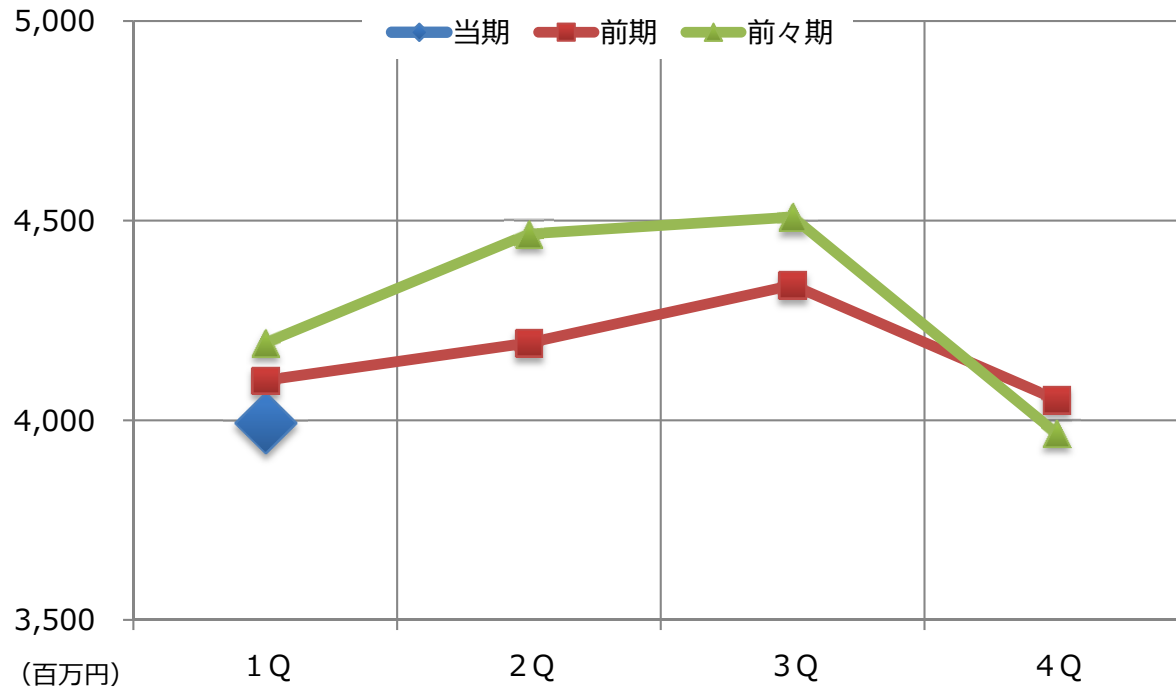
## 結果>

- ✓ 売上高の前年同期比は、減少幅を最小限に抑えることに成功し、セグメント利益は固定費の削減効果が寄与し、前年同期比で20.2%増加しました。

# 四半期売上高の推移(広告事業)

(単位：百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期計
当期	3,994	-	-	-	3,994
前期	4,100	4,194	4,338	4,052	16,684
前々期	4,194	4,467	4,509	3,968	17,138

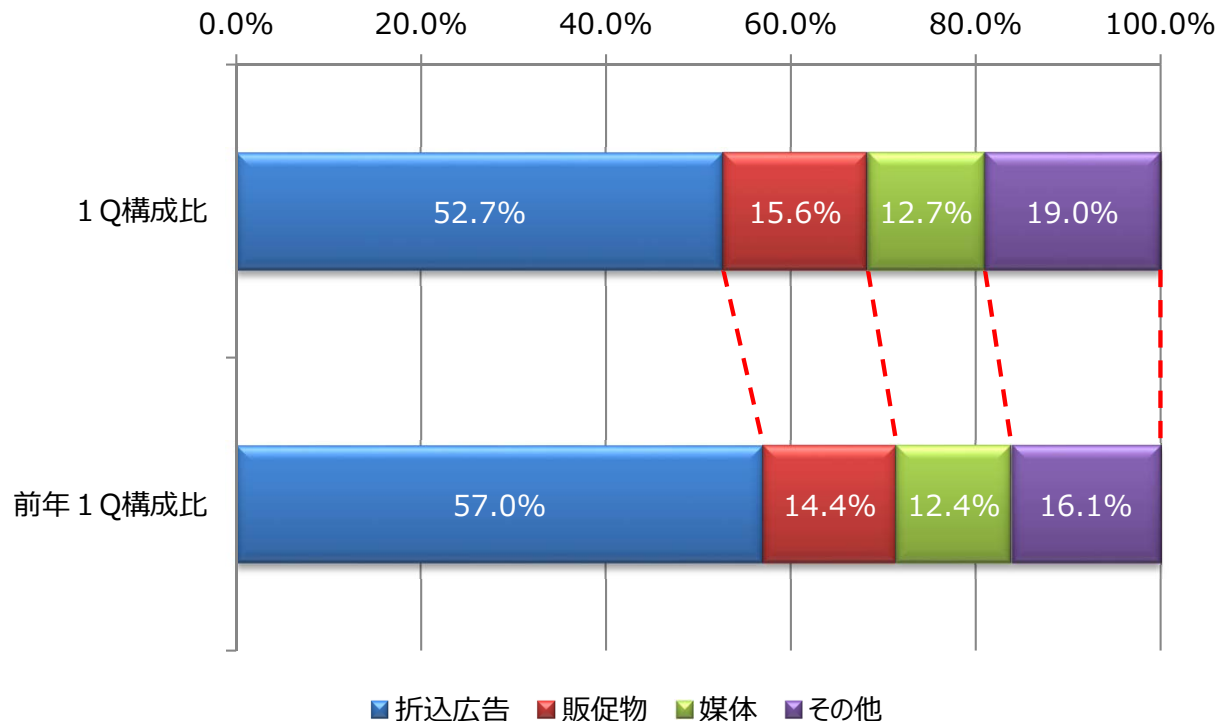


✓ 当第1Qにおける広告事業の売上高は前年同期に比べ、106百万円減少しました。入替自粛の影響が無かったと仮定すると、売上高は過去2期の同期間を上回る結果であったと推察しています。

# 品目別売上高の推移(広告事業)

(単位：百万円)

	当1Q累計期間	構成比	前1Q累計期間	構成比	前年同期比
折込広告	2,104	52.7%	2,338	57.0%	90.0%
販促物	625	15.6%	592	14.4%	105.5%
媒体	506	12.7%	509	12.4%	99.4%
その他	758	19.0%	660	16.1%	114.8%
	3,994	100.0%	4,100	100.0%	97.4%



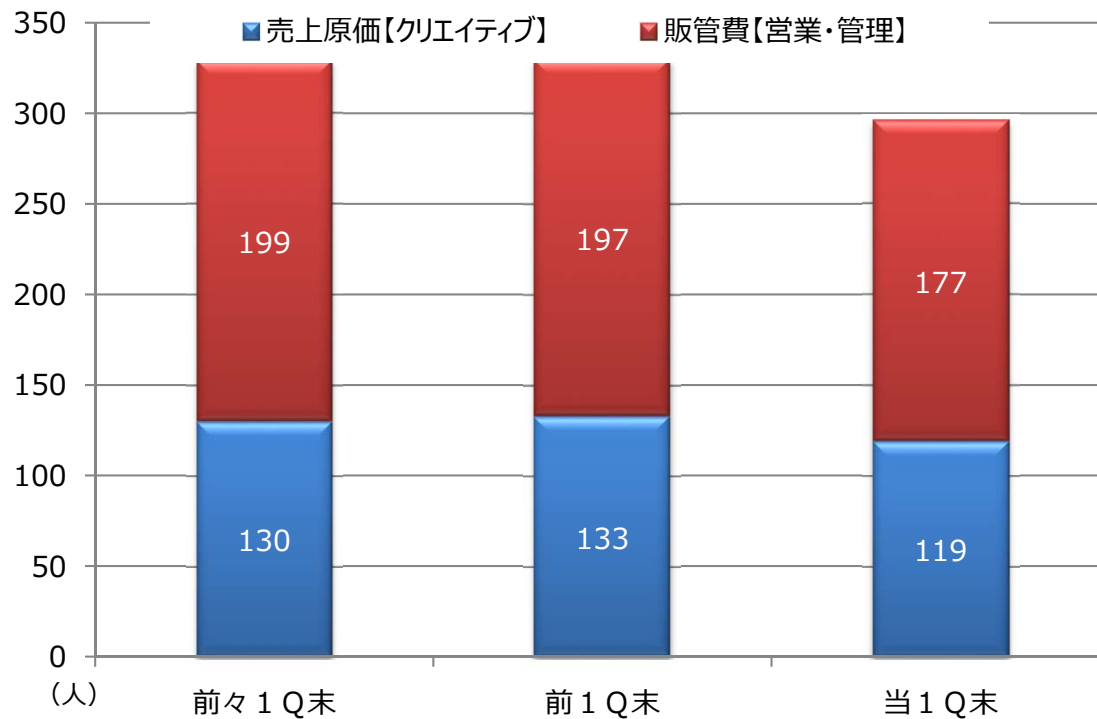
✓ プリンティング事業が折込広告売上に寄与しましたが、入替自粛に伴う入替告知広告需要の減少により、折込広告の前年同期比は234百万円減少し、構成比も4.3ポイント低下しました。

✓ インターネット広告等を含む、その他の区分については売上・構成比ともに前年同期を上回っています。

# 従業員の状況(広告事業)

(単位：人)

	前々1Q末	前1Q末	当1Q末
売上原価【クリエイティブ・製作】	130	133	119
販管費【営業・管理】	199	197	177
広告事業計	329	330	296



- ✓ 営業拠点集約
  - ✓ 子会社主導のデザイナー採用
  - ✓ 受注プロセス見直し・合理化
- = 当第1Q末の従業員数は、前1Q末と比較して34人減少しました。



# 第1四半期 損益計算書(不動産事業)

(単位：百万円)

不動産事業	当1Q累計期間	前1Q累計期間	前年同期比
売上高	36	36	-
営業費用	19	22	86.4%
セグメント利益	17	14	118.0%

✓ 当第1Qにおいては、既契約で継続中の2件の他に、新たな売買・仲介案件はありません。

✓ 事業運営の合理化を推進したことで、売上高は36百万円(前年同期比増減なし)、セグメント利益は17百万円(同18.0%増加)となりました。

# 第1四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (A)	当1Q末 (B)	差額 (B) - (A)
現金及び預金	3,507	3,227	△280
受取手形・売掛金	2,289	2,095	△193
その他流動資産	333	266	△67
有形固定資産	946	942	△4
無形固定資産	123	117	△6
投資その他資産	827	816	△11
<b>資産合計</b>	<b>8,026</b>	<b>7,467</b>	<b>△559</b>
支払手形・買掛金	1,408	1,176	△232
短期借入金（一年内返済予定の長期借入金を含む）	290	240	△50
未払法人税等	213	109	△103
その他流動負債	248	250	2
長期借入金	500	465	△35
その他固定負債	18	18	-
<b>負債合計</b>	<b>2,678</b>	<b>2,259</b>	<b>△418</b>
株主資本	5,317	5,188	△129
その他	31	19	△12
<b>純資産合計</b>	<b>5,348</b>	<b>5,207</b>	<b>△140</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>8,026</b>	<b>7,467</b>	<b>△559</b>

①納税、配当による現金および預金の減少

②四半期純利益+194百万円  
利益配当△235百万円  
自己株式取得△88百万円

(単位：百万円)

	2017年3月期 1Q実績	前回発表 2017年3月期 2Q累計予想	今回修正 2017年3月期 2Q累計予想	増減率	対今回修正予想 進捗率	前回発表 2017年3月期 通期予想(据え置き)	進捗率
売上高	4,054	7,000	7,600	+8.6%	53.3%	14,600	27.8%
営業利益	323	400	500	+25.0%	64.6%	1,040	31.1%
経常利益	294	400	500	+25.0%	58.8%	1,040	28.3%
純利益	194	260	330	+26.9%	58.8%	700	27.7%

### 当期初時点の予測>

- パチンコホールの収益性悪化によるコストダウン圧力の高まり = 経常的な広告需要の減少を予測
- 伊勢志摩サミットに関連して、新台入替自粛確定 = 単月の入替広告需要は大幅に減少

### 当第1Q結果を受けての2Q累計予想の見直し>

- ✓ 受注の減少を最小限に食い止めることが出来たことから、売上高は前回発表予想比で増加する見込み
- ✓ 営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は、主として広告事業における売上高の増加に伴うマージンの増加により、それぞれ前回発表予想比で増加する見込み

### 通期連結業績について>

全国のパチンコホールにおいて、本年8月末及び12月末を期限として、「検定機と性能が異なる可能性のある遊技機」の撤去が予定されており、業界を取り巻く環境の不確実性が高く、広告需要の将来予測が著しく困難であることから、現時点では前回発表予想(平成28年4月15日発表)を据え置き

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・IR窓口 経営企画部 Tel.03-5358-3334